

2001 年度深川国際交流協会総会 ～ 活動 5 年目に向かって～

深川国際交流協会

4 月 25 日（水）プラザホテル板倉において、2001 年度の総会が開催されました。

芳賀会長の挨拶のあと、2000 年度の取り組み経過については、ホストファミリー研修会の開催、青少年カナダ交流訪問団派遣事業の実施、インターナショナルデーの開催、「2000 地球環境米米フォーラム in ふかがわ」田植え・稲刈りフェスティバルの参加協力、協会ホームページの開設についてなど、各事業部会長から報告されました。続いて、本年度の事業計画では、新たに高校生交換留学制度事業の支援を決めました。

また、事業部会の名称について、活動内容の見える名称にしたいということで、「ふれあい部会」を「受入交流部会」に「海外交流部会」を「海外派遣交流部会」にそれぞれ名称を変更しました。役員改選では、芳賀会長ほか役員が再任され、武藤優子理事の後任には、高田真知子さんが理事に選任されました。

これからも、会員皆様のご協力をよろしくお願いします。

《2001 年度 事業計画》

1. 市民国際理解を深める事業

国際交流市民の集い開催事業

- ・市民を対象に、国際理解を深める講演会等を開催共催する。

外国人とのふれあい事業

- ・青少年を対象に、フレーザーバレー大学教授や A E T とのふれあい事業（インターナショナルデー）を共催する。

ホストファミリー研修会開催事業

- ・市民を対象に、外国人の受入れ方を学ぶホストファミリー研修会を開催する。

英会話教室開催事業

- ・初心者向けの英会話教室を開催共催する。

2. 市民の海外派遣による交流事業

青少年海外派遣事業

- ・青少年の派遣実施及び壮行会、報告会を開催する。

市民及び団体の海外派遣の検討

- ・市民の海外交流推進に向けた支援の方策等を検討する。

高校生交換留学支援事業

- ・高校生の交換留学派遣事業を支援する。

3. ホームステイ受入れによる交流事業

高校生交換留学支援事業

- ・交換留学生受入れ体制の準備と受入れを実施する。

フレーザー・バレー大学研修生受入れ事業

- ・研修生受入れ体制の準備と受入れを実施する。

その他留学生等の受入れ事業

- ・その他の留学生等の受入れ体制の準備と受入れを実施する。

4. 国際交流の基盤づくり事業

新規会員の勧誘及び各種行事への協力要請活動

ホストファミリーの新規開拓と登録事業

通訳・翻訳ボランティアの新規開拓と登録事業

電子メールによる情報交流と通訳サービスの手法の研究

協会広報紙の充実発行

協会ホームページの充実更新

《これまでの取り組み・活動の経過》

年月日	これまでの主な取り組み・活動の内容
1997.3.27	深川国際交流協会設立総会を開催
1997.7.30～8.12	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1997.11.13	「深川市とカナダ・ブリティッシュコロンビア州アボツフォード市との国際交流姉妹提携の提言書」
1997.11.23	青少年カナダ交流訪問団報告会を開催
1998.4.30～6.26	フレーザーバレー大学生5名、教員1名（ジョナサン・シャンクス）来深
1998.7.27～8.11	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1998.11.13	第9回北海道・カナダ姉妹都市会議並びに第88回カナダ・スクール（芦別市）に理事長出席
1998.12.13	第2回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1999.2.16	青少年カナダ交流訪問団報告会並びに国際フレンドシップフォーラムを開催 北方圏センター国際理解講演会を深川市と共催
1999.5.11～6.30	やさしい海外旅行英会話教室を拓殖大学北海道短期大学と共催
1999.6.14	インターナショナルデーを国際ソロブチミスト深川と共催
1999.7.27～8.11	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1999.10.29	第10回北海道・カナダ姉妹都市会議に出席
2000.4.18	総会開催
2000.4.20	広報部会開催
2000.5.9～7.12	やさしい英会話教室を拓殖大学北海道短期大学と共催
2000.5.10	ホストファミリー研修会開催
2000.5.18	国際理解部会開催
2000.5.25～6.1	トリッサ・ストロングさん来深（歓迎夕食会出席・さよならパーティ開催）
2000.5.27～5.28	「2000地球環境米米フォーラムふかがわ」田植えファスティバル参加・協力
2000.6.3	青少年カナダ交流訪問団選考会開催
2000.6.15	国際理解部会開催
2000.6.23	広報部会開催
2000.7.5	インターナショナルデーを国際ソロブチミスト深川と共催
2000.7.11	広報誌（Vol.7）の発行
2000.7.14	国際交流団体連絡会議出席
2000.7.27～8.11	青少年カナダ交流訪問団研修
2000.8.24	深川市AET歓迎夕食会出席
2000.9.20	第1回理事会開催
2000.10.5	広報部会開催
2000.9.23～9.24	「2000地球環境米米フォーラムふかがわ」稲刈りファスティバル参加・協力
2000.10.27	第11回北海道・カナダ姉妹都市会議出席
2000.11.9	第2回理事会開催
2000.11.17	広報部会開催
2000.11.19	青少年カナダ交流訪問団報告会開催
2000.11.28	広報誌（Vol.8）の発行
2001.1.15	リサ・ブラウブリッジさん来深（ホームステイ受入3ヶ月）
2001.1.20	第3回理事会開催
2001.2.7	ホームページ開設
2001.3.16	広報部会開催
2001.3.22	正副理事長・事務局長会議
2001.3.23	国際理解部会開催
2001.3.27	第4回理事会開催
2001.4.5	海外交流部会開催
2001.4.10	広報部会開催
2001.4.17	広報誌（Vol.9）の発行
2001.4.25	総会開催

'01 青少年カナダ交流訪問団報告

'01 青少年カナダ交流訪問団

2001年7月26日から8月11日の行程で実施された青少年海外派遣事業（青少年カナダ交流訪問団）の報告として、参加された皆さんに思い出を綴ってもらいました。本号と次号の2回にわたり特集します。

なんだ、かんだ、CANADA

深川国際交流協会理事 宮田嘉明（引率者）

“カナダって、どんなところなんだろ？”知らないけど、きっと写真で見るように、木があって湖があって、美しいところなんじゃないか？ “外人いっぱい居るんだよね” “そりゃそうだろう、だってカナダだも。でも向こうへ行けばこっちが外人だよ。” あっそうかあ。 “いくんだよねー”

これは、6月16日、2回目の事前研修の時、なにげなく交わした、子供達とのたわいない会話でした。この頃は、まだ子供達の心の中のカナダは、ぼんやりと雲につつまれているようでした。最初の頃の事前研修は歌をうたえば声が出ない。よさこいを踊れば元気がない。本当にカナダに行けるのだろうか？と何回も思いました。

7月に入って、少し体制が整ってきた頃、国際交流協会の事業である、インターナショナルデーに参加した子供達は、笑顔で参加しているAETとお喋りをしていました。なんとかなるかなと、その時なにげなく思いました。

7月24日、壮行会の日、沢山の人達の中、自己紹介を終え食事を取り、いよいよパフォーマンスのお披露目の時です。正直、一番緊張していたのは、私たち2人だったかもしれません。パフォーマンスが無事終わって、舞台から降りてくる子供達を見ながら、なぜか小さくガッツポーズをしていました。

7月26日、午前10時まるっきりの晴天の朝、くったくの無い笑顔で集まって来る子供達の顔を見ながら、まだスタートもしてないのに “2週間後、また笑顔で戻って来たい” そんな事を考えていました。そして、少し変わったルートを通りいよいよカナダへのスタートが切られました。

千歳に向かうバスの中は、緊張感からか意外に静かで、何か物足りないほどでした。PM2時30分、千歳から成田へ、そしてPM3時40分、蒸し暑い成田に到着、待ち時間がかなりあった為、それぞれ思い思いにショッピングや広い空港内を見学し、時間を過ごしていましたが、さすがに後半は疲れたらしく、待合室で仮眠を取る子供達もいました。カナダ行きの飛行機に乗ればあとは、ホストファミリーのところまで、ノンストップという事もあり、子供達の疲れ具合が心配でした。

日本時間、午前4時、機内食を運ぶワゴンと共にあちこちの窓が開き出しました。外の景色は強い太陽の光と、はるか下界の濃紺の海の色でした。そして遠くに見える山脈は、写真で見るカナダそのものでした。1時間後、我々12名はカナダの地をしっかりと踏みしめていました。迎いのイエローバスに乗って空港を後にする頃には、見るものすべて

に興味を示し、ほとんど子猫状態でした。

アボツフォード市まであと15分、子供達の雲行きが、なんとなく怪しくなってきました。“これから、何かある” そんな期待と覚悟を1人1人がしているように見えました。学校に着くと、沢山のホストファミリーの人たちが笑顔で待っていてくれました。そして、お互い手を振る間もなく、すばやく連れ去られる子供達の顔はほとんど“はにわ”状態でした。

それから2週間、日に日に変わる子供達の表情は明るく、そしてたくましいものでした。ホストファミリーの暖かい心に触れ、また、新鮮で上質で豊富な毎日の体験が、急速に子供達を変えていきました。帰国の朝、思い出がいっぱい詰まった涙が、子供達の目にもホストファミリーの目にも有りました。バンクーバ空港までの子供達は、思い出せないくらいの思い出を噛みしめているようでした。

なんだ、かんだ、有った2週間のカナダ滞在、考えてみると、この子供達との付き合いも事前研修から数えると2ヶ月半にもなっていました。8月11日、午後12時半、バスから降りる子供達の後ろ姿をみながら本当になんだ、かんだ、あったなと、つくづく思い返していました。

「ホストファミリー」

伊藤大介（一巳中学校 2年）

自分のホストファミリーは4人家族だった。お父さん、お母さん、デイビット、ジュミーの4人と、ジョーイという賢い犬が一匹。お父さんは、クリスチャンで、夕食の前に、お祈りしたり、日曜日には教会に行っていました。お母さんは、とてもいい人で、朝早く起きて、朝食や昼食のサンドイッチを作ってくれました。あと、お母さんは、映画がとても好きで、DVDが家にたくさんあった。デイビットは、音楽が大好きで、朝起きて、夜寝るまでずっと、「Xfm」というラジオを聞いていた。ジュミーは、いたずらの好きな奴だった。食事中に、よくお父さんにおこられてたけど。

週末の休日には、水上スキーやウォーターボードのワールドカップに連れてってくれた。その大会はすごかった。水上スキーで30m位ジャンプしたり、ウォーターボードで空中で2回位回っていた。楽しそうだけど、やってみたいとは思わなかった。

アメリカにもつれて行ってくれ

た。アメリカのショッピングセンターは、とてつもなく広がった。

自分は、ホストファミリーのおかげで、カナダにいる間、元気に楽しく過ごせました。また、いつか、ホストファミリーに会いに行きたいです。

7月31日

7月31日、朝起きてみると、外の天気はくもりで、少し寒かった。今日はピクトリアの旅の2日目、今日の午前中はほとんど、自由行動で、希望者は Royal British Columbia Museum に行く。希望しない人は、3時間近く Government St という通りで買い物三昧だ。

自分は博物館に行った。あと博物館に行ったのは、先生達とタカさんだけだった。博物館に入ってまず、目についたのは、トーテムポール、それも結構大きなものが4本も展示されてた。人や虫、動物を題材にしたものらしい。2階に行った。2階は大昔のことや、自然についてだった。高さ3.2m、重さ6トンとい

う、巨大なマンモスの模型もあった。次、3階。3階には怪しい仮面がたくさん展示されていた。ケリーさんの話では、その昔、白人がインディアンからだましとった物ばかりだという。3階にもトーテムポールがあった。多分、今日だけで20本以上見たと思う。

帰る途中に、ローラ先生が教えてくれた物が2つある。1つは、「Zero Point」という、アメリカとカナダの国境にある。白い杭、それを越えると、もうアメリカだと言っていた。2つめは、「Elk Lake」という湖。この湖は、カナダのオリンピックのボートチームが、いつも練習する湖だという(残念ながら、人はいなかった)とてもきれいな湖だった。

船とバスでアボツフォードまで帰って、ホストファミリーの家についたのが夕方の6時位だった。1泊2日の旅行なのに、1週間ぶりに帰ってきたような感じがして、夕食も食べずに、疲れて寝てしまった。

最っっ高のホストファミリー、そしてダンディ - な運転手・ベン

稲場ひとみ（深川西高校 2年）

7月26日、今日は待ちに待った出発の日。お母さんや友達、市長さんが見送りに来てくれて感動的なお別れをしたはずなのに……。私がお別れを忘れちゃって出発から30分後、市役所に再び戻って来ちゃった。みんな迷惑かけちゃってゴメンネ

成田空港で時間がたっぷりあったから30分だけビップルームが使って、そこではサンドイッチやジュースが飲み放題だと宮田さんから聞かされていた私達は、お腹がいっぱいだと言いつつも期待に胸を膨らませていました。しかし扉を開くとそこには食べ物らしいものは見当らず驚いた私達に宮田さんは「エコノミーだからないのかな。

笑。」とあっさり言いました。その時私はだまされたと思いました。かなりのショックでしたよ、宮田さん!!

そんな肩をおとした私達を乗せて飛行機は日本を飛び出した。そしてまたまたショックなことに機内食のマズイこと。

そして眠りから目覚めた頃、私達のすぐ足元にはカナダの土地が広がっていた。そしてそこから漫画に出てくるような黄色いスクールバスに乗ってアボツフォードに向かった。運転手のベンが気をつけて高速には乗らないで街を走ってくれた。さすがジェントルメンだと思った。

そして学校に着くとそれぞれの

ステイ先のファミリーが来てくれていた。対面した時はすごくドキドキして緊張の瞬間だった。それぞれホストファミリーに拉致されて行った。日本語が使えないと思うと不安で不安でたまらなかった。

家に向かう車の中で、少し緊張ぎみの私に色々と話しかけてくれるけども、さっぱり頭がまわらなくて、とりあえず「Yes」としか言えない私に、ファミリーの人達も少し困っていたように思えた。この先2週間カナダでやって行けるかすごく不安になった。

カナダに来て初めて食べるごはんにすごく不安だった。だけど家を出てきた料理は普通のミートボールのように見えたが食べてみると

何か不自然に甘い……。カナダではごはんは期待しないでおこうと思った。

夜は子供達と遊んでおみやげでコミュニケーションをとってベットに入り、日本のことを思って切ない気持ちになって寝た。

もっとしっかり英語を勉強しとけばよかったなあと思わされた初日でした。

最っ高のホストファミリー

お父さんの第一印象はこわそうでした。それで初めはすごく嫌だなあと思ったけど、話してみるとすごく優しく楽しいパパさんだった。子供達は2人ともすごく、すごくかわいくって食べちゃいたいと思わせるくらいだった。

4人家族だったから食卓とベランダのところに4つしかイスがなかったからお父さんが私用のイスを買って来てくれて感動しちゃった。

私のところのファミリーはすごくよくって、いろんな所へ連れて行ってくれた。買い物に行くとGAPばかり。すごい好きなんだって。休みの日にはアメリカにも連れて行

ってくれた。お母さんのお兄さんがプライベートビーチを持っていて、すごいたくさん親戚が集まった。子供もたくさんいたけど、やっぱりうちの子の2人が一番かわいかった。

学校が終わると子供と遊ぶのがおきまりになっていた。だから全然ひまなくって楽しい時間を過ごせた。お父さんが日本食のレストランに連れて行ってくれたりした。

私がピクトリア旅行で朝早く出かけた時に、子供たちが私が日本に帰ったと思って泣いたんだって。それを聞いた時、日本に本当に帰る日のことを思うと胸が苦しくなった。

私が日本に帰る3日位前からお父さんとお母さんの2人とも機嫌が悪くなった。原因は子供達のがまま。だけど私の前ではすごく優しくしてくれた。

最後のお別れの日が来て、もうこのファミリーと会えないと思うとすごく悲しくて、学校に行ってみんなに会ったら、ずっとガマンしてた涙が出てきた。お母さんも泣いてくれた。一緒に過ごした時間が楽しかった分、よけいに別れがつかかった。

私は自分のホストファミリーが

一番最高だったとあっています！！たった2週間だったけど家族として接してくれてうれしかったです。

ダンディ - な運転手・ベン

空港にスクールバスに乗ってさっそうと現れた運転手のベン。彼はとてもクールでダンディ - です。カナダは初めての私達を乗せて街に繰り出した。高速道路にはあえて乗らなかった心の優しいベン。いつもバナナを持っていて歌の好きなベン。私達はそんなベンが大大大好きでした。

何回か違う運転手さんが来てくれたけど、ベンじゃないとわかった日の私達のテンションはちょっぴり下がっちゃいました。でも、その分、次に会う時はいつもよりうきうきしました。

最後の日もいつものように私達はベンの運転するバスに揺られて空港まで向かった。バスから降りて空港内に入る時、また涙が出てきそうになった。別れは何度してもつらいね。

We Love Ben!!

最高の夏休み！

私の自慢の家族

私の家族は、ダニー(父)、ダイアナ(母)、マイケル(兄)、ダニエル(妹)の4人に、ビリー、ウィニーの犬2匹でした。

初めて会った時、私はとても緊張していましたが、ダイアナが笑顔で迎えてくれて、子供達は照れて、もじもじした姿がかわいくて「良さそうな家族だな」と思い安心しました。ダニーは大きな犬2匹を連れてサングラスをしていたので、ちょっと怖かったけど、話をしてみると、とても優しく、また安心しました。

それからの毎日は、アイスクリームショップ、キャンディーショップ、でっかいショッピングモールなど、様々な所に連れて行ってもらいま

した。一番印象に残った場所は、アボツフォードが一望出来る丘のような所です。その場所からアボツフォードが全部見えて、とてもキレイで感動しました。更に感動したのは、私達はその風景を見ている時に、野生のシカが現れた事です。本当に偶然の事で、みんなで静かに見ていました。あの光景を5人で見れた事は、良い思い出になりました。

そして、一番嬉しかった事は、帰る前の日に、トレーナーとネックピースをもらった事と、私の作った肉じゃがと、ちらし寿司を喜んで食べてくれた事です。トレーナーとネックピースをもらった時は、突然の事だったので驚いたけど、とても嬉しかったです。日本食は、1回しか肉じゃがを作っていなかったの

安でしたが、みんなすごく喜んで食べてくれたので良かったです。

私の家族は、私にとっても優しく接してくれました。ダニーはいつも私に話しかけてくれて、ダイアナは買い物に連れて行ってくれたし、マイケルとダニエルは、私と遊んでくれました。みんなのおかげで良い思い出が沢山出来ました。

私の家族は最高でした。

いつも優しくしたローラ先生

2週間、私達の英語の授業をしてくれたり、私達と共に行動してくれたローラ先生は、いつも笑顔で私達を迎えてくれました。

私達が眠たくて静かなときも、他の事で話が盛り上がり、騒いでいても決して怒らず、優しく一生懸命、

私達が取り組みやすいように努力をしてくれました。そして、葵ちゃんが誕生日の時は、ローラ先生手作りのケーキをみんなで食べました。日本のケーキより少し甘かったけど、とてもおいしかったです。

私達は、ローラ先生と様々な所に行き、様々な体験をしてきました。私が一番思い出に残っているのは、バンクーバーと一緒に買い物をした事です。私が見つけれない不思議な物や珍しい物を見つけて、見せてくれてとても良い勉強になりました。

私達は、このような優しい先生と会えて本当に良かったです。

最高の16日間！

今日は日本に帰国した日だ。この16日間を振り返ると、夢のような16日間だったなぁと思う。まず、海外に行く、と言う事が私にとっては夢だった。7月26日になっても実感が沸かず、「東京で遊んで帰る

うか。」なんて言っていた頃がとても懐かしかった。

まだ帰る日じゃない！と自分の中では思っていたけれど、トランクに荷物をつめている自分がいて、本当に日本に帰るんだなぁと実感した。いつものように私を送ってくれたダイアナやマイケル、ダニエル。すごくみんなと別れるのが辛かった。でも1つだけ嬉しい事があった。いつも笑顔で送り迎えをしてくれたダイアナが、涙を浮かべながら、ギュッとハグをしてくれた。私は、自分の事を家族として認めてくれたのかな、と思い嬉しくて嬉しくて、いっぱいハグして、いっぱいいっぱい泣いた。

そして、みんながホストファミリーと別れる時も、いっぱいもらい泣きをしてしまった(笑)。

毎日、英語の授業をしてくれたローラと、毎日バスの運転をしてくれたベン、毎日私達と一緒に行動してくれたケリーさん達との別れもす

ごく辛かった。

空港では、並び方でちょっとトラブったり、飛行機の出発時刻が遅れたり、ひとみの買った物を間違っって持っていったのを取り返したり、結構波瀾だった。でも、私達の波瀾っぷりは、これだけじゃなかった。成田空港の人ごみの中、私達は一生懸命走って頑張ったんだけど千歳行きの方に乗れず、羽田に一泊した。慌ただしくはけど、一応無事に日本に着き、深川に到着した。

羽田に一泊したせいか、みんな全然疲れてなくて元気だった。むしろ、これから12人で行くかのようだった。

この16日間、毎日楽しくて楽しくてしょうがなかった。私達に最高の夏休みを与えてくれてありがとうございました。そして、このプログラムに参加させてくれた両親に感謝したいと思います。

大好き、ホストファミリー！

桑原 葵 (深川西高校1年)

8月1日~Good!

今日は朝からベンの運転するスクールバスに揺られて、ロングハウスへ行きました。ロングハウスに着くと、ヘイトンのストロー族についての、たくさんの話を聞かせてもらいました。内容は大きな岩にとじこめられた男3人についての伝説です。その岩はそこでは、聖なる岩として扱われていました。

その後、少し湿った草でプレスレットを作りました。昔の人々は、今の様に何もかもが十分にそろった生活ではないので、たくさんの様々な工夫をこらしながら、協力して生活していたんだなということがわかりました。

そして、次に私達は編み物を体験しました。話によると、山ヤギの毛で、木に山ヤギがこすりつけた毛束を少しずつ集めて、編み物の材料として使っていたそうです。山ヤギの毛を手でさわってみると、とてもや

わらかくてふわふわしていて、気持ちよかったです。

さて、その後は昔の人々が工夫して作った道具で、木をけずったりと、力仕事をしました。私には少しきつかったです。でも、こういうふうにして、昔の人々は作業していたんだなとわかりました。

さぁ！いよいよ昼食の時間！！ヘイトンのストロー族は昔、漁業中心の生活だったそうで、食生活の八割が、フレーザー川からとった、サケだったそうです。だから、もちろん今日の昼食はサーモンバーベキュー！！他にも、サラダやフルーツと、おいしいものばかりで幸せでした。そして何より驚いたのが、ごはんを食べる前に、歌っていた「あえ〜」という歌です。それは、ごはんを食べられることに感謝して歌われているそうです。アボッツフォードの市長さんも参加し、とてもおもしろく、興味深い体験ができて、よかったなと思いました。

そして、学校へ到着。みんな少し疲れていたけど、その後英会話の授業をしました。授業が終わると、迎えに来てくれていたパパ(Jim)が、いつもの様に「今日は楽しかったかい？」と聞きました。なので、私は今日あった、おもしろかったことについて、ぎこちないけど、がんばって英語で話してみました。私が今日一日良い日を過ごしたと知って、パパは「Good!」と、笑顔で言ってくれました。

緊張、そして感動！

私は、初めてホストファミリーと対面するとき、正直に言うとても緊張していて、ドキドキしていました。その原因は、カナダへ出発する直前に私のホストファミリーが急に変わってしまったからです。でも会ってみると、Jim(パパ)とDebbi(ママ)はとても私に対して親切で、おまけに「私は子供が二人いるけど、二人とも息子だったからあなたが

来て、娘ができたようでうれしいわ。」と、Debbi が言ってくれました。その時、私の緊張は一気に無くなってしまいました。

家に着くと、息子の Kevin と Jordan を紹介してくれました。二人とも背が高くて驚きました。その日の夕食は Jordan が作ってくれました。夕食中に彼は「おいしいですか?」と日本語で聞いたので、私はもっとびっくりしました。彼は学校で日本語を勉強をしているそうで、ひらがなの読み書きもできました。

翌日、彼らは私にギターの演奏をしてくれました。二人とも、とても息があっていて、すごく良かったです。Kevin の彼女の Mondy も、ま

るで本当の家族みたいに、私と親しくしてくれました。Mondy は、しばしば家に来て、食事やショッピングにも一緒に行きました。そしてショッピングの時に、おすすめの CD や洋服を教えてくださいました。

その他、Debbi は私に料理を教えてくださいました。チョコチップクッキーを一緒に作り、ビデオを見ながら食べました。

Jim は私を映画館へ 2 回も連れて行ってくださいました。映画館は、日本とは全然ちがいで、とても広くて驚きました。

そして、私の一番の思い出は、私の誕生日をたくさんの人が祝ってくれたことです。

誕生日パーティーには、グランパやグランマ、Jim のお兄さん家族、Mondy も来てくれました。Debbi が作ってくれた料理は全て、とてもおいしくて、その中でも誕生日に作ってくれた、アイスクリームケーキは最高でした!!!

みんなでハッピーバースデーの歌も歌ってくれて、とても感動しました。みんなでおしゃべりもたくさんしました。私はとても素晴らしい時間を、大好きな人達と一緒に過ごすことができました。私は私のホストファミリーが大好きです。本当に本当に、みんなありがとう!!!

最高の家族と Animal house!!、恐るべしウォータースライド!!!

坂東南々 (深川西高校 1 年)

最高の家族と Animal house!!

私にとって今年の夏休みは今までで一番の思い出をつくるのが出来ました。英語しかつうじないカナダで初めての home stay でどうなっちゃうのか不安でいっぱいだったけど、終わってみると良いことだらけの 2 週間だった気がする。出発当日の日、私はまだ実感がなかった。皆と一緒にいけるという楽しみで私の心の中はいっぱいだった。カナダ行きの飛行機の中では狭くて寝れないし、食事は不規則だしでめっちゃくちゃだったけどみゆきと変なことしてて(?) あっというまに着いちゃった。空港の外には黄色い school bus が待っていて、それを見た時あまりのかわいさに感動した。

カナダの町は想像以上にきれいで驚きの連続だった。学校に着くと、まだ来てないはずの host family がもう来ててかなりあせった。私の host family はパパの John、ママの Michelle、Pretty 三姉妹の Raven、Kenya、Shae の 5 人家族で皆優しく接してくれた。特に Raven と Kenya とはかなり仲良くなって毎日一緒に遊んだ。初めの日、家に着くと私の部屋が用意されてて、しかも新しく感動した。Raven が作ってくれ

た壁掛けらしきものもあった。それから私の家には犬 1 匹と猫 4 匹、鳥 1 羽に小魚が 100 匹ぐらいいいて animal house でもあった。毎日のエサやりを私も手伝って犬と猫とも仲良くなった。

けど、私の家は小さな子どもがいたため (1 歳・3 歳・5 歳) どこかに連れて行ったりはほとんどしてもらえなかった。唯一、行ったスーパーはあまりの大きさに圧倒されて私は叫びっぱなしだった。売ってる食品も買物カゴもとにかく big で驚いた。あれはスーパーというよりも倉庫と言ったほうがふさわしいかもしれない。

それと、あかねの host family と一緒に遊園地に行って 2 泊した。その 2 日間はかなり enjoy できた! CD shop で大量買いしたり・・・でも、聞けなかったけど。夜は二人で熱く語ったりで本当に楽しかった。あかねのママとパパも優しくしてくれたし良い 2 日間だった。

3 連休の最後の日、日本料理を作ってくれたけど私の host family はベジタリアンだったので「親子丼」のはずが「玉子丼」になってしまった。それでも皆、おいしいっておかわりまでして食べてくれた。しかも、なぜかパパとママは、はし使うのう

まずいで、驚!!!

私の host family は本当に良い人でこの家に home stay できて良かった!

カナダでのこと書くときりがなくなるけど、この 2 週間は本当の本当に良いことづくしで毎日が楽しかった。Home stay を通して、自分自身の成長にもつながったし、この 10 名で行けてよかった! このような機会をもうけてくれたすべての人にこの場をかりて言いたいこと。Thank you!! またぜひカナダに行きたい! もう一度、この 10 名で!!!

8 月 7 日 ~ ウォータースライドへ Go!

今日は、1 時間くらいそれぞれの 3 連休について英語の授業で話してから、バスに乗ってウォータースライドへ Go! バスの中は 3 連休の話で盛り上がりアメリカに行ったなんていう人もいた。たいへん盛り上がりつつうちに横を見るとそれらしき建物を発見。ところがあまりの高さに一同言葉をなくす・・・

そして次の瞬間、一声に叫ぶ。「高すぎ~!!!」恐がりながら中に入りさらに驚く。水着に着がえただけで恐くてはじめは大きなうき

わみたいのに2人で乗るやつに行った。

したっけ、おしりをはめる所が大きすぎて滑ってるうちにあかねが転倒。あわや大事件！！かなり気分がブルーになったとこで、思いきって一番恐そうなやつ横(これも怖いけど。)のをやろうとして登ってったんだけど、いつまで登るのってぐらい上まであって、皆だんだん恐くなって叫びながら上まで行った。下を見るとすでに岡ちゃんと大介は滑り終えてて、さすが男！と思った。

うちらもがんばらんきゃと思いジャンケンポンしてトップバッターはやっぱりみゆき！続いてなな、あかね、あおいちゃん。思ってたより恐くなくておもしろかったけど、す

ごいスピードでおしりがTバック(笑)になるのを防ぐので精一杯だった。それから勢いになってグルグル回るやつにも乗った。3コースあって全部ためしたけど急なのに乗った後だからさほどではなかった。

少し疲れたので、昼食ってことになったんだけど、“ひとちゃん”と“まちゃこ”と“かなちゃん”が、フレンチフライを食べてて、うちらもつられて買ったっけやたらおいしくて感動～ だけど横に座ってたおばちゃんが、こっちを迷惑そうに見ててかなり腹たった。日本語通じないっていいねえ～。って思った。だって何でも言えちゃうもんね！！

皆が昼食、食べてる時に皆があんまり楽しそうにしてるから、高田先

生もその気になって、なっ！なんとまだ男2人しか滑ってない一番急なのかなちゃんと2人で行ってしまった。かなちゃんはともかく、先生大丈夫か？！と残ってた皆は心配してたけど、そんなことも気にしてないらしく先生はさっさと行ってしまった。滑ってる所、見ようってことになって皆で見に行った。先生は、きちんとねて滑らんきゃなんないのに座ってて、かなり危なかった。

最後に筋肉ムキムキの型みたいなのに頭つつこんで写真とって、小さなショップで水鉄砲を大量買った。はじめはどうなるかと思ったけど天気も良くて楽しい一日だった。明日はどうとう「さよならパーティー」だ。さみしいな・・・。

2001年インターナショナルデー開催される

深川国際交流協会理事 笹口和子

恒例となったインター・ナショナルデー。今年は7月3日に、120名以上の参加者をもって盛会のように終えることができました。

インター・ナショナルデーは、市内に住んでおられる外国人と中高生が、ゲームを楽しみながら英語にふれ、交流を深めるとい企画ですが、「楽しいことをしながら仲良くなる！」というのは世界共通のようです。

今年のプログラムをご紹介します

すと、Making Story、コーヒー・ブレイク、日本の不思議あてクイズ、ダンス・タイムといった内容でしたが、中高生のみなさんは楽しんでいただけでしょうか。感想など聞かせてもらえたら嬉しいのですが。

深川のように、地方の小さな街では外国の方とお友達になったり、生活を共にしたりという機会はどうしても少ないと思います。1年に1度ですが、インター・ナショナルデ

ーを通して、中高生の皆さんが、そのチャンスをつかんでくれたらと思います。

この日に向けて準備から終了までかかわった国際交流協会と国際ソロプチミスト深川の皆さん、市の職員の皆さん、そしてゲストとして参加して下さった拓殖大学客員教授ご夫妻はじめAETの方、留学生の皆さん、ありがとうございました。

シリーズ

深川国際交流協会広報誌“わくわく国際交流”では、姉妹都市・アボツフォード市のあるカナダのフレーザー・バレー地域のことを知るために、“カナダのフレーザー・バレーってなに？”をシリーズで掲載しています。今回で9回目の掲載になります。

今回は前号に引き続き、交換教授として4ヵ月間フレーザー・バレー大学で日本語教育の授業を担当された橋本さんの“アボツフォード滞在記あれこれ～Part2”です。

カナダのフレーザー・バレーってなに？⑨

アボツフォード滞在記あれこれ ~ Part2

拓殖大学北海道短期大学・深川国際交流協会理事 橋本 信

アボツフォードの学校！？

義務教育は小学校と中学校ですが、カナダの学校は小学校から高校まで学費がかかりません。しかし、外国人は別です。今年アボツフォードの小学校の場合、一人月額600ドルでした。高校の場合は月額1000ドル（1年間は10ヶ月計算）だそうです。

アボツフォード市には公立小学校 (elementary school) が40校あり、公立の secondary school が9校、私立の学校が14校あります。公立の secondary school はいわば5年制で、中学 (junior high school) 3年、高校 (senior high school) 2年となっています。公立9校のうちアボツフォードの名前を持った中学校と高校が一つずつあり、今までは中学と高校を併設するのが普通でしたが、今後中学校と高校の分離が進むようです。

小学校は7年制で6才から入学し、13才で卒業ということになります。就学直前の5才児のための幼稚園（1年制）もありますので、小学校には5才から13才までの子どもたちが通っているのが普通の姿です。ここでは私の子どもが通っている Jackson 小学校を例に小学校の様子を見てみましょう。

小学校の時間割は8:30~10:00 授業、10:00~10:20 中休み、10:20~11:35 授業、11:35~11:50 昼食、11:50~12:20 中休み、12:20~14:20 授業、というようになっています。授業時間中にいろいろな科目を次々とこなしていくようです。始業前と中休みおよび昼休みには徹底して外で遊ぶように指導しています。英語が分からなくても

算数・体育・コンピュータは面白いようです。英語のわからない子どものための ESL は専任教員がつきます。

幼稚園は午前のクラスが8:30~10:52、午後のクラスが11:58~14:20 となっています。2001年に5才になる子どもたちはこの1月に幼稚園に登録し、9月から通いますが、登録時に午前か午後の組を選びます。

この小学校は全校生徒250名規模で、校長を含む教員が17人（女性13名）、職員が3人で、隣接学年を統合したクラスも含めると10クラスありますが、クラスの規模は20~28人と決められています。さすがアイスホッケーの本場だけに、2月には3回のスケート授業がありました。スキー授業はありません。

日本のように学校給食制度がないので、子どもたちは毎日お弁当を持っています。ほとんどがサンドイッチ・おやつ・飲み物の三点セットで学校に持ってきますが、学校の売店で買って昼食を済ませる子どももいます。中休みがおやつの時間です。昼食が15分しかありませんが、簡単なサンドイッチなので時間はかかりません。

昼休みの外遊び時間と登下校の時間には、PTA 役員や地域のボランティアの人たちが活躍します。登下校時には横断歩道のボランティアがしっかりと管理し、昼休み時には校庭を PTA 役員や地域のボランティアの人たちががっちりと監視しています。子どもたちの親や保護者は、いわば日本の幼稚園のような感じで、積極的に学校のことに関わることが多いように思います。

驚きのあれこれ

4ヶ月も外国で生活するのは初めてのことで、驚きとまどろことは挙げれば切りがありません。最初に印象的だったことは何もかもがビッグサイズであることです。子どもたちと一緒に買い物に出かけたとき、4リットル入りの牛乳が普通サイズであるとか、日本よりもビッグなものばかりにみんなの目が向いていました。

次に印象的だったのがカナダ人のアバウトさです。約束の時間が30分程度ずれるのが当たり前であると考えておかないと、約束を間違えたかのような錯覚に陥ります。よく言えば「おおらかさ」、悪く言うと「いいかげんさ」と表現できますが、いわば一つの行動パターンなのではないかと思えます。

しかし、カナダは大きくて多様なマルチカルチャラルな社会ですから、私たち家族が体験したことはカナダ社会のほんの一部に過ぎず、ここで挙げたことがカナダ社会のすべてであるわけではありません。

国と社会の違い、言葉と文化の違いは、一面では確かにコミュニケーションギャップを作ってしまう要因になりますが、他面では相互理解をもっと深めていくための要因にもなります。驚きと戸惑いは「違いの発見」につながります。日本とカナダ、深川市とアボツフォード市、北短とUCFVの相互理解をさらに深めるような「違いの発見」を期待して、私の拙い文を終えることにします。

(2001年3月24日カナダにて)

深川の国際交流～近年の動向から

1996. 9 -----カナダ市民交流調査団派遣
1997. 6 -----第1回青少年カナダ交流訪問団派遣
1997.10 -----拓大東京本校留学生ホームステイ受入れ
道高P連等が主催するアメリカ・マサチューセッツ州スプリングフィールド市の方々のホームステイ受入れ
1998. 5 -----姉妹提携に関する使節団派遣
1998. 7 -----第2回青少年カナダ交流訪問団派遣
1998. 9 -----アボツフォード市代表団受入
姉妹都市提携調印・姉妹都市提携を祝う市民交流会開催
1999. 7 -----第3回青少年カナダ交流訪問団派遣
1999. 8 -----第1回深川市職員派遣
JICA「インドシナ地域総合開発計画管理セミナー」研修受入れ
1999.10 -----日加親善協会副会長エアード・フラビル氏来深
2000. 5 -----深川青年会議所訪問団派遣
2000. 5 -----2000地球環境米米フォーラム in ふかがわ 田植えフェスティバル開催
アボツフォード市総務部長トリッサ・ストロング氏来深
2000. 7 -----第4回青少年カナダ交流訪問団派遣
2000. 8 -----深川市公式訪問団派遣
2000. 9 -----2000地球環境米米フォーラム in ふかがわ 稲刈りフェスティバル開催
2001. 7 -----第5回青少年カナダ交流訪問団派遣
東京外語大学留学生ホームステイ受入れ
2001. 9 -----北海道・アルバータ州ボランティア交流使節団訪問受入
第2回深川市職員派遣
2001.11 -----コールメム訪問団派遣（予定）・高校生交換留学派遣（予定）
2002. 5 -----アボツフォード市公式訪問団受入（予定）

この他に、毎年、カナダ・フレーザーバレー大学から拓大に客員教授や学生、アボツフォード市をはじめ、各国の多くの方が来深し、ホームステイや交流を行っています。

◎最近の国際交流

北海道・アルバータ州ボランティア交流使節団来深

北海道とカナダ・アルバータ州は1980年10月に姉妹提携をしました。1992年にボランティア交流に関する覚書を調印し、1994年からボランティア活動の実践者やボランティアリーダーの派遣、受け入れを交互に実施し親善交流をしています。

7回目となる、今年度は、北海道が受入れをする年で、歯科医師のマイケル・リー団長ら6人がアルバータ州ボランティア交流使節団として、8月30日（木）から9月7日（金）まで、札幌市をはじめ旭川市、伊達市などに滞在し、ボランティア活動を通しての国際交流を深めました。

市長が、（財）北海道地域活動振興協会の理事長を務めている関係から、一行は、9月2日（日）、旭川市で開催されたボランティア愛ランド'01に参加した後、市長を表敬訪問しました。市長の通訳には、協会の高田真知子理事がボランティア通訳として務めていただきました。

リー団長は、「北海道は、素晴らしい。ボランティア活動への精神が似ている。若い世代に奉仕の精神を伝えたい。」などと述べ、懇談後、レストラン マザーズ・カントリーで昼食懇談後、ぬくもりの里・向陽館、アートホール東洲館を視察し、帰路につきました。

深川市職員 2 名がアボツフォード市で研修

国際感覚を身に付け、今後の国際化に向けたまちづくりを担う市職員育成のため、海外研修先をしばらくの間、姉妹都市のアボツフォード市に限定して実施することになり、平成 11 年度は、3 名の男性職員を派遣しました。2 回目となる今年も、女性職員 2 名を 9 月 24 日から 10 月 5 日まで派遣し、アボツフォード市には、9 月 24 日から 9 月 28 日まで滞在します。ホームステイも経験しながら、市内の視察や毎週月曜日の夜に開催されている市議会を傍聴し、独自の調査研究なども実施します。

深川・アボツフォード音楽交流使節団が

アボツフォード市を訪問

市民レベルでの国際交流が盛んになってきていますが、深川混声合唱団コール・メム、追分民謡会の会員約 40 人が「深川・アボツフォード音楽交流使節団」を編成し、平成 13 年 11 月 10 日から 11 月 17 日までの 8 日間、アボツフォード市を訪問します。ヴァレー・フェスティバル・シンガーズとのジョイント・コンサートや市内の小中学校や老人施設を慰問して、ミニコンサートを開催し、文化交流を行なう一方、ホームステイもしながら国際交流を深める予定です。

高校生交換留学制度の実施について

今年度から深川市では、将来を担う高校生の国際感覚を養成することを目的に、高校生の交換留学制度を実施します。協会としても、青少年海外派遣事業と同様に、市民の海外派遣による交流事業のひとつに位置付け、新規事業として全面的に支援していきます。

当初の予定では、留学生は 5 人で、9 月から留学期間は 3 ヶ月間を予定していましたが、6 人の申込があり、市としても今年初めての事業であることから、今年に限って 6 人全員に留学してもらうことに決定しました。

留学生は、深川西高等学校 2 年生 2 人、深川東商業高等学校 3 年生 3 人、旭川北高等学校 2 年生 1 人の計 6 人ですが、アボツフォード市側が、夏休み期間に入り、教育委員会の受け入れ体制が決まりませんでした。子供たちも早い出発を待ち望んでおりますが、9 月 21 日に姉妹都市委員会が開催され受け入れについて協議されました。今後も何度か会議がもたれる予定ですので、出発までにはもう少し時間がかかるようです。

アボツフォード市から公式訪問団来深

1998 年 9 月 14 日、アボツフォード市代表団を迎えての姉妹都市提携調印式後、両市長出席のもとに開催された懇談会の席上で、各市 4 年に 1 回の公式訪問団の派遣による親善交流が確認されました。

昨年は、深川市から姉妹都市提携後、初めて、市長を団長に市議会代表者及び各界代表者からなる公式訪問団 12 名を派遣しました。訪問中は、エアショーやアグリフェアにも参加し、さよならパーティには、第 4 回青少年カナダ交流訪問団も一緒に参加し、親善交流を深めてきました。

いよいよ来年は、アボツフォード市から公式訪問団が来深します。訪問の時期は、5 月中旬の予定ですので、深川市民みんなで、暖かく歓迎し交流を深めましょう。

東京外国語大学留学生が深川にホームステイ

～ ホストファミリーのみなさん、ありがとう！～

東京外国語大学留学センターから、滝川国際交流協会を通して、8 月 1 日から 7 日までの 1 週間、ラオスやイランなどからの留学生 5 人のホームステイの受け入れについ

て依頼がありました。夏休みの忙しい時期ではありましたが、受入交流部会の土門部会長が、協会会員を中心にホストファミリーをお願いしたところ、4 家族の

方々にご快諾いただき、4 人の留学生を受け入れました。

受け入れにあたっては、鈴木和子さんご夫妻がホストファミリーのリーダーとなって、深川滞在中の日

程を作成して、市長を表敬訪問し、市内や近隣市町の視察、豊泉牧場でのバター作り・パン作り体験、水車の里フェスティバル参加、テニスやパークゴルフなどを通して交流を深め、深川での楽しい思い出をたくさん作っていただきました。

学生たちは、ホストの方たちの親切な対応に感激し、元気に大学生活を送っているそうです。

深川市を訪問した留学生はもち

ろんのこと、受け入れたホストファミリーの方々にとっても一生涯の思い出の1つになったことでしょう。

深川市には、毎年、拡大をはじめとして、いろいろな形で外国人の方々が訪れており、深川でホームステイをしています。

みなさんもホストファミリーとして、外国人の方を受け入れてみませんか。

海外に行かなくても、それ以上の国際交流を肌で感じることができ、心に残る思い出をつくることができると思います。

受け入れて下さったホストファミリーの皆さん、お忙しいところ本当にありがとうございました。

なお、今回の留学生とホストファミリーは、下表のとおりです。

《ホームステイした留学生とホストファミリーの皆さん》

留学生の皆さん	性別	年齢	国名	ホストファミリーの皆さん
シーラペット シッティボン	男性	19歳	ラオス	山田 敏夫さん(一巳)
メノラト サイナム	男性	19歳	ラオス	菊池久美子さん(音江)
アミルシャヒ ハニエ	女性	19歳	イラン	鈴木 和子さん(深川)
サイヤハ ユーセフ	男性	28歳	モロッコ	辻井 繁子さん(音江)